

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 2
2016. 6

TOPICS

1

「岡大農場出身『千屋牛』」 岡山市内の百貨店で販売開始

農学部附属山陽圏フィールド科学センター津高牧場で生まれ、新見市の有限会社哲多和牛牧場で肥育した「千屋牛」が6月15日、「岡大農場出身『千屋牛』」として天満屋岡山店（岡山市）精肉売場で販売開始されました。

津高牧場では、25年間にわたって外部からウシを導入することなく、岡山系雌ウシと雄ウシの交配にこだわり、優秀な系統の選抜を実施。優良な子牛を年間40頭程度、出荷しています。

「岡大農場出身『千屋牛』」は、津高牧場から出荷した子牛（生後8～9カ月）が、新見市にある哲多和牛牧場でオカラやエリンギの培地、県産もみ米等の発酵飼料など、こだわった方法によって20～22カ月肥育され、千屋牛の定義を満たした和牛です。今回、農学部附属山陽圏フィールド科学センターで生産された農産物や加工品を販売する際の統一ブランド「岡大農場」を付けて、継続的（毎月1頭程度）に販売されることになりました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id5847.html

快挙！競泳ジャパンオープンで2位入賞 水泳部中尾駿一さん（MP3年）

TOPICS

2



競泳のジャパンオープン2016（5月19～22日）で、本学水泳部の中尾駿一さん（マッチングプログラムコース3年）が男子50メートル背泳ぎで25秒45をマークし、2位入賞を果たしました。1位のリオデジャネイロ五輪代表選手とは0秒01差という僅差。自身の持つ岡山県、中国記録を更新する結果となった中尾さんは「表彰台を狙っていた。力を出し切り、結果が出て本当にうれしい」と話していました。ジャパンオープン表彰台は岡山大学初の快挙です。

ジャパンオープンは東京辰巳国際水泳場で開催され、リオ五輪代表選手も勢揃いするなど注目の集まった大会。中尾さんはこのほか、男子50メートルバタフライ、男子100メートル背泳ぎにも出場し、バタフライでも3位に入賞しました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id5883.html

最近の大学の取組

教員研修センターと 連携・協力に関する協定を締結

本学と独立行政法人教員研修センターは6月7日、連携・協力に関する協定を締結しました。同協定では学校教員の養成・採用・研修の一体改革にむけたさまざまな連携・協力を実施。教育・研究の向上や推進、地域社会や学校教育の発展と活性化にむけた連携関係を構築します。同日、岡山市内で行われた協定書調印式には、森田潔学長、同センターの高岡信也理事長ら約10人が出席しました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id5854.html

若者の政治参画ワークショップ開催

本学地域総合研究センターは6月2日、津島キャンパス内の国際交流会館で「若者の政治参画ワークショップ」を開催しました。本ワークショップは、同センターの岩淵泰助教とNPO法人「Youth Create」代表理事の原田謙介氏が講師を務める講義「実践型デモクラティックラーニング」の一環として実施しました。

当日は学生や高校生、自治体職員など総勢70人が参加。「若者を政治に参画させるにはどうしたら良いのか」をテーマに活発な意見交換が行われました。発表された意見の中には、「議員との距離を近くする」「周囲の人に選挙に行ったことを伝える」「選挙と同時にイベントを行う」等、さまざまなアイデアが出されました。

「実践型デモクラティックラーニング」では、今後も大学と地域が連携した講義を展開していく予定です。参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id5849.html



RESEARCH HIGHLIGHTS

1

敗血症の治療法開発へ新たな道筋 血漿タンパク質 HRG がカギ

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科(医)薬理学の西堀正洋教授、和氣秀徳助教らの研究グループは、マウスの敗血症病態モデルの解析によって、複雑で重篤な敗血症病態を理解する上で重要な血漿タンパク質 Histidine-rich glycoprotein (HRG) を同定し、HRG が循環血中の好中球と血管内皮細胞の静穏化維持に極めて重要な働きをする因子であることや、敗血症病態のカスケードが血中 HRG の低下を起点として進行することを世界で初めて解明しました。また、本研究グループは HRG を薬として補う新しい治療法を検討。敗血症時に HRG が著明に低下したマウスに、HRG を注射によって補充することで劇的な生存維持効果があることを見いだしました。本研究成果は6月10日、Cell 誌と Lancet 誌が共同サポートする科学誌「EBioMedicine」電子版に掲載されました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id401.html



RESEARCH HIGHLIGHTS

2

メスの目移りを防ぐオスメダカ ～恋敵に奪われないための二重の戦略～

異性を手に入れるために努力し、同性で競い合う、というのは人間の世界だけでなく広く動物界で観察される現象ですが、その行動の意義や行動発現のメカニズムに関しては、観察を越える実験的評価が難しいことなどから、まだ十分に明らかになっていません。

今回、基礎生物学研究所、岡山大学大学院自然科学研究科の竹内秀明准教授らの研究グループは、メダカの三角関係(オス、オス、メス)において、オスは配偶者防衛行動(ライバルオスとメスとの間の位置をキープし、両者の接近を防ぐ)により、メスがライバルオスを記憶することを妨害することを発見しました。

本研究成果は動物学専門誌「Frontiers in Zoology」に2016年6月2日付けに掲載されました。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id398.html



RESEARCH HIGHLIGHTS

3

心不全の進行を抑制する分子を特定

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科(医)の片野坂友紀助教、川崎医科大学の氏原嘉洋助教、毛利聡教授らの研究グループが、心不全の発症・重篤化の過程で $\text{Na}^+/\text{Ca}^{2+}$ 交換体 (NCX1) の活性が著しく低下していることを発見。低下した NCX1 活性を回復させることで、心不全の進行を抑制できることを、遺伝子改変マウスを用いた実験により明らかにしました。本研究成果は5月26日、ヨーロッパ心臓病学会誌「Cardiovascular Research」に公開されました。

今後、細胞外への Ca^{2+} 排出系として働く NCX1 の活性低下を防ぐ薬剤の開発により、心不全の治療への応用が期待されます。

参考 http://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id399.html

